

高山・市民の森 森林教室実施報告書

「森の散策とミニクリスマスツリー」

令和5年11月12日

- 1 実施日時 令和5年11月12日(日) 10:00~14:30
- 2 参加講師名 NPO 森林インストラクターしずおか
担当者 青野、杉山
アシスト会員 大石、矢下、越智、早川、小長井
- 3 参加者 16人(大人8人、子ども8人)
- 4 概要



当初は、7家族24人の参加予定だったが、キャンセルが相次ぎ、5家族16人の参加となった。水見色側の道路が不通であることや、インフルエンザの流行ということも影響したのではないだろうか。今日は、曇り空で少し寒かったこともあるかもしれない。

参加者を3つのグループに分けたが、一家族が道を間違えて大幅に遅れたため、1名のインストラクターを残しその家族の対応に当たった。

この時期は、花が少ない時期であり、かつ草刈りを実施した後なのでなおさら見られる花数は少なかった。それでも、この時期ならではのセンブリやキッコウハグマが見られた。また、果実もまだ残っていて、ウメモドキ、ムラサキシキブ、ミヤマシキミ、クマノミズキ、タラノキなど見ることができた。

【森の散策】

今回、班分けした3グループの家族は、リピータ組と高山初めて組とに分かれたが、それぞれコースは違うけれども、どの班も楽しい森林散策になったようだ。その様子を垣間見てみよう。

1 班(矢下・早川担当)

当初、頂上展望台まで登る予定だったが、2人の子供が昆虫などに興味を示してそれらを追ったり捕まえたり、お母さんが植物の説明を熱心に聞いてくれたこともあり、予定通りの速度で進まず、途中で頂上展望台を目指すことを諦め、目的地を中間展望台に変更した。参加者家族は何回か参加経験のあるリピータで、たまにご家族で山に登ることもあり山や森などの自然に馴染んでいて話しやすかった。

子供たちが見つけたりした虫類には次のようなものがあった。まず、ザトウグモと呼ばれているザトウムシを見つけて、「このクモ以前見かけたことがある」と言っていたが、ザトウグモと呼ばれてはいるがクモではないと説明した。また、シジミチョウを見つけて何匹も捕まえていた。カマキリやバッタを捕まえて楽しんでいた。気温が低いせいもあってか、昆虫は元気がなかったようで簡単に素手で捕まえていた。中間展望台ではアリジゴクを目当てに登り、穴をいくつか見つけた。

植物はたくさんの種類に接することができて参加者は喜んでいた。センブリやキッコウハグマが

少し群生している場所に案内し、花の少ない時期に咲いているこれらの花を觀賞してもらった。センブリについては、苦くて千回振ってもその苦さが取れない植物で薬草でもあるという説明をした。家族が林道に生えていたツルリンドウを見つけてくれた。また、ガマズミの実を皆で味見をした後、ミヤマシキミの赤い実を見せこちらは毒があることを解説したところ、しみじみ眺めていた。コウバナとも言い枝を仏に供える話をした後、ヒサカキの前でこちらはヒサカキと言って姫榊と漢字で書くように神社で玉串として利用していると説明を加えた。

(早川 記)

今日のお客さんは、7才と4才の元気な男の子とお母さん、高山の昆虫教室等に参加している**自然が好きな親子**だった。

まず行きたい所を聞いて見ました、好きな場所は？頂上まで？上のお兄ちゃんがく最初に行きたいと言った場所は「森の泉」と道路を挟んだ反対側のモリアオガエルの水たまり。昆虫教室の印象が強く残っていた様子。**将来の夢は植物の先生になりたい**と話す。そこで質問、人間の体は何から出来ているの？「骨かな、赤い丸いの(赤血球)かな？」と言う返事。そこで、人間はなにを食べているのかなと聞いてみた。野菜とか、お肉等だね。その**牛や豚の食べ物は植物**だね。だから、「それを食べる人の体は植物から出来ているとも言えるね」、と植物の大切さを説明した。(お母さんには、人は**従属栄養生物**の説明)

その植物は**育っている所から動けない**ので、大きく育つ為に色々な備えをしている。その中でも**植物の香りは大きな役目**を持っている、香りは大まかに分けて二つある。

一つ目は**花の香り**、これはその植物が**次の世代に命を繋ぐ**ために虫達に花粉を運んで貰う為のもの。

二つ目は**葉や材が出す香り**。これは葉や材が**害虫や微生物に侵されない**ためのもの。特に葉は害虫に嚙られると、周りの葉達に「危ない昆虫が来たから気をつけろ」と、注意する物質や、**害虫の天敵**の好きな香りの物質を拡散する。これによって周りの葉達も「**自分を守る物質**」を出して準備する、「**森の樹達は話をしている**」と説明、準備したミズメ・サンショウ・クロモジの香りを味わって貰った。

子ども達は、次の目的地に至る道沿いの落葉の下からも、次々に昆虫を見つけ、なかなか進まない。行く先は半ば**子供達任せ**、此处でもカマキリやザトウムシを見つけては座り込む。ここで**ハリガネムシがカマキリの脳を支配**して、自分達の繁殖場所の**水辺に誘導**する事、葉の先で茶色に固まった昆虫は細菌に感染していて、細菌の繁殖のため高い所まで登らされる事等、自然界の厳しさを説明した。

虫達を追いながらも、子供達は大きな葉(トチ・キリ)を拾ってくる。トチバ味噌や食事を包んだ等の話をした。なんとか池の南側の展望台に着いたところで**蟻地獄の主**を探すが、見つからない、昆虫教室の時に**見つけたらしい**。

ようやく帰路につくが、**此处で又大きなフトミズ**を見つけた、今度は近づかない。苦手らしい。短い時間であったが、自然の中で**植物と植物以外の他の生き物との関係**を感じる、良い時間に

なったと思う。

(矢下 記)

2 班(大石・小長井担当)

参加3回目の家族(夫婦と女兒(6才と4才))4名を案内した。山頂は行ったことがないとのことだったので、森の恵みから山道で山頂まで行き、車道で戻るコースにした。女兒が山頂まで行けそうでない場合は、途中でコースを変える予定だったが、心配無用だった。疲れも見せずに元気に歩き、最後まで楽しそうであった。

最初に登り口にあるイロハモミジの種子を見てもらい、風散布で遠くへ散布する理由などを説明した。女兒には、自分で種子を飛ばしてプロペラのようにまわる様子を見もらった。スギ、ヒノキ林に入ると、針葉樹と広葉樹の違いを説明した。山道にはスギやヒノキの枝葉がたくさん落ちていて、スギとヒノキの葉の違いを説明した。女兒は違いには興味を示さなかったが、気に入った枝葉があると拾って手持ちの袋に入れていた。

山頂では牛ヶ峰の山頂まで行って、女兒や家族の写真を撮ったが、背景の富士山が雲に隠れていたのが残念だった。

五感を使った体験としては、サンショウの葉やクロモジの枝の匂いを嗅いだり、ガマズミの実を味見してもらった。女兒は興味があるようで反応もよかった。特に、ガマズミの実については、一粒では満足せずに、二粒以上味見していた。

森の恵みに戻る手前の車道の左山側にニホンカモシカがこちらをじっと見ているのを父親が見つけた。少し離れていたが、女兒に見せてあげていた。

(小長井 記)

3 班(越智・杉山担当)

2 家族を担当、共に初めての高山であるという。そこで高山の紹介がてら五感を使った体験を中心に観察して歩く。

鼻を使ってミズメとクロモジの香りを体験。ミズメでは「どんな香りがする?」と聞いたところ、子どもから「おばあちゃんちの薬の匂い!」。すぐにサロメチールの香りが連想できる名回答であった。

山頂へ行きたいというご希望により、急遽コースを管理道利用で山頂コースと決めた。高山の森は、元々はスギ・ヒノキの人工林であったが広葉樹との混交林にし、災害にも強く、動物や昆虫など多くの生き物が暮らす豊かな森を目指していることを説明した。途中、センブリやキッコウハグマの花、アカメガシワ、ムラサキシキブ、タラノキ、クマノミズキなどの種子や果実を観察した。アカメガシワやクマノミズキは子どもが見つけてくれたものだ。

ウラジロを採り、グライダーのように飛ばして見せた。子どもは早速、真似してやってみたがうまく飛ばない。でも楽しそうに持って帰るつもりらしい。ウリハダカエデの種も飛ばして、クルクル回転しながら飛んでいくことを体験してもらった。子ども達は、山頂でもウラジログライダーを飛ばして遊

んでいた。

帰りは、ウメドキやノリウツギ、ヒカゲノカズラ、ミツマタなどを観察しながら高山の池へ。高山の池の見どころ、ミズバショウやモリアオガエルなど説明した。遊びの広場で、センブリを見つけ再度じっくり観察した。収穫の森の中に伏せ込んだ榎木から、ナメコが出ていたのを見つけ、みんな興味津々、サルはあのぬめりが苦手で食べないことを話すと不思議そうであった。

(杉山 記)

4 班(青野担当)

現在、通行止めの水見色に行ってしまう、到着が大幅に遅れた一家族を案内する。

到着が11時を過ぎてしまったので、高山の池から中間展望台までのコースを歩いた。

シイタケとナメタケの榎場を見てもらい、高山の池に伝わる竜伝説、モリアオガエルについて説明する。また、クロモジの香りを体験してもらい、スギとヒノキの違いやコアジサイやヒサカキなどを観察した。

(青野 記)

【ミニクリスマスツリー作り】

ツリー本体はテーダマツ。日本のマツより大きく、見栄えがする。飾りは木の実。きらびやかなツリーも良いが、ここは是非、自然物を利用して味わい深いものを作ってもらいたい。森の恵みを利用してもらうことが目的だ。

皆さんに十分な木の実の飾りが用意された。クルミやアラカシ、マテバシイ、クヌギなどのドングリ、それにトウヒ、アカマツ、クロマツ、メタセコイヤ、コウヨウザン、ヒノキ、トウヒ、モミジバフウなどの球果、ナンキンハゼやカボチャの種、綿など多種多様な木の実等々、リボンも出てきた。なんと贅沢な材料だろうか。

参加者の皆さんの中には、グルーガンを初めて使う人もいたが、インストラクターのアドバイスなどもあって、使い慣れると、だんだん手際よくなっていく。形の違うマツボックリを重ねる2階建てのツリーなど独創的、個性的な作品が出来上がった。ツリー以外の自分だけのドングリ飾りを作る子供もいてクラフトを楽しんでいた。

ネイチャークラフトを通していつも感ずることだが、子どもの発想の豊かさに驚かされることたびたびである。自分の頭の固さを痛感する。

5 提案

今回の森林散策で、収穫の森周辺にミツマタが数多く見られたので、この群落を大切に育て、ミズバショウ、コアジサイ、1本桜に加えて、ミツマタの群落も見どころの一つにしてはどうか。立地条件としては適していると思われる。

6 写真

【森の散策】



【ミニクリスマスツリー作り】





以上